

友愛の精神学ぼう

神戸で講演会 賀川豊彦の思想解説

日本を代表する社会運動家、賀川豊彦（1888～1960年）が唱えた社会構想などを再認識する講演会「いま、賀川豊彦に学ぶもの」が6日、神戸市東灘区田中町5のコープこうべ生活文化センターであった。市民やコープこうべ職員ら約250人が、賀川が説いた「友愛」の精神を感じ取っていた。

「賀川豊彦献身100年記念事業実行委員会神戸プロジェクト」（同市中央区）とコープこうべ（同市東灘区）の主催。賀川が1936（昭和11）年に著した英文書「ブラザーフッド・エコノミクス」が今年、「友愛の政治経済学」の題名で



賀川豊彦が唱えた友愛の精神や社会構想について語る野尻武敏神戸大名誉教授「コープこうべ生活文化センター」

初めて日本語訳版が出版されたことを記念し

た。同書を監修した野尻武敏神戸大名誉教授が講演。賀川の考え方に通底する理念として「人格」「友愛（兄弟愛）」を挙げ、「賀川の社会理論はキリスト教社会思想を体系化したといえる」と評した。その上で、賀川が指摘した厳しい資本主義批判や、社会形成の主役としての自発的な組織、多極化の時代における世界連邦運動などを挙げながら「賀川の提起は近代文明批判ともいえ、今日に生かされる部分がたくさんある」と指摘した。

（野尻 悟）